

## 「人と自然」の発刊に際して

兵庫県立・人と自然の博物館は平成4年（1992年）10月に三田市深田公園内に開館の予定で、博物館設立準備室は諸般の準備に多忙を極めている。兵庫県に自然系博物館の建設を望む声は以前から強いものがあり、昭和59年（1984年）より自然系博物館建設基本構想委員会が設けられ、近藤典生氏を委員長として熱心な討議を重ねていただき、2年後の昭和61年（1986年）末に基本構想が作成された。また、これに基づいて昭和62年（1987年）から3年間にわたって展示委員会が桃井節也氏を委員長として検討を重ねられ、5つの主題とその内容を決定された。そして昭和63年（1988年）には博物館の位置として、県がニュータウン化を進めている三田市が選定され、「21世紀公園都市博覧会」の会場であった深田公園内の「ホロンピア館」を活用して、増改築を行うことになった。さらに平成元年（1989年）には、教育委員会事務局の社会教育・文化財課に自然系博物館設立準備室が設けられ、現在に至るまで鋭意準備に専念している。

この博物館は、構想の段階から一つの理想像を追求している。それは、観念的に言えば、国内で一流の博物館であり、しかも国際的に通用する博物館でありたいという思いであり、実際的には、従来の博物館の持つ機能のほかに多くの機能を有する開かれた博物館を指向するということである。従って、「調査・研究」、「収集・保存・展示」、「普及・教育」という本来博物館の有すべき機能のほかに、次のような特色を実現しようと構想している。

第一には、すぐれた研究者を集めて、学术交流・共同利用の場として活用していただくこと、その研究分野は自然の本質を究明するために必要な地学・生物学のほかに、人と自然の共生に関して提言し得る環境問題の研究をも重視することである。幸いなことに、伊谷純一郎前室長の考えられた研究分野の構想に県当局も深い理解を示され、1)地球科学研究部、2)系統分類研究部、3)生態研究部、4)生物資源研究部、5)環境計画研究部の5研究部で研究を開始することになった。第二の特色は、主として県民に対して開かれた機能として、自然と環境に関するデータを収集・整理して情報発信を行うデータバンク機能と、稀少植物種の保存・増殖をめざすジーンバンク機能と、諸情報の解析にもとづくシンクタンク機能とを持ち得るように準備している点である。もとより、高度な研究とそれにもとづく諸機能を持ち得たとしても、これらの成果を県民に還元して親しまれる博物館としていくことが最大の使命であると自覚している。

設立準備室は多忙であるとはいえ、研究重視型の博物館を目標とする以上は、研究員の研究成果を絶えず公表する義務がある。ここに「人と自然」と題する博物館の紀要の第1号を刊行できることは喜びにたえない。編集にご協力下さった方々と室員以外の投稿者の方に厚く御礼申し上げる。従来の経緯から考えてみても、我々の博物館はここに至るまでにも多くの人たちのご理解とご協力の下に進められてきたことを痛感している。貝原知事、清水教育長をはじめとする県当局の多数の方々、構想に努力を傾注された諸先生方に心より謝意を表するとともに、今後も変わらぬご協力をお願い申し上げる次第である。

この「人と自然」をお読み下さる人たちには、前述の我々の考え方にご理解を賜り、発展途上にある私たちへ暖かいご支援を下さることをお願いし、またご忠告を賜ることを希望して序文を終わらせていただく。

1992年3月

兵庫県立自然系博物館  
設立準備室長  
加藤 幹 太